

## はじめに

近年の国際化、情報化、少子高齢化等の進展などによる急激な我が国の社会状況の変化とともに、私たち日本人の価値観やライフスタイルも大きく変わろうとしています。そのような中でスポーツは、人間の思考・言動の本源的欲求に応えるほか、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすとともに、社会生活に必要な人間の資質の形成などに重要な役割を果たすものであるという認識が高まっております。

このように、スポーツは健康の増進や体力の向上のみならず、人間にとって生涯を生きていく上で不可欠な文化として、また、現代社会における高齢化の進展や生活習慣病の増加による医療費の増大、青少年の健全育成や体力低下の問題、余暇時間の増加など諸課題に対応するものとしての役割が期待されています。

また、スポーツは人間の可能性の極限を追求する営みであるという意義を有しており、競技者の極限へ挑戦するパフォーマンスは、スポーツへの関心を高め、スポーツの振興に寄与するとともに、すべての人々に夢や感動を与えるなど、健全で活力のある社会の形成にも貢献することが期待できます。従って、21世紀の社会において、国民一人ひとりの生活の中に、スポーツを位置づけたライフスタイル（スポーツライフスタイル）を構築することは大きな意義があります。

本会では、創立100周年を記念して2011年に公表した「スポーツ宣言日本—21世紀におけるスポーツの使命—」の具現化に向けた取り組みを本格化していきます。これまでの国民スポーツ振興の基本理念であった「生涯スポーツ社会の実現」を包含しつつ、さらに一歩進めて新たに「スポーツ立国の実現」を掲げるとともに、それに基づく各種事業推進の方向性を示した新しいスポーツ推進方策を策定してまいります。

これからの100年に向けて、スポーツに携わるすべての方々や団体・組織等と連携・協力し、スポーツを通して「公正で福祉豊かな地域生活の創造」、「環境と共生の時代を生きるライフスタイルの創造」、「平和と友好に満ちた世界の構築」の3つの使命の達成に努める所存です。

これらの使命を達成するために、スポーツ指導者が果たす役割は極めて重要です。

スポーツは、あくまでもプレイする本人が、それぞれの目的のため、自主的・自発的に行うものであり、本人のやる気があってはじめて行われるものです。スポーツ指導者は、プレイヤーのやる気を導き出し、自立したプレイヤーを育てることが重要となります。そして、その指導方法は、スポーツ医・科学などさまざまな知識に裏付けられたものでなければなりません。

そのためにも、本会「公認スポーツ指導者制度」で定めるカリキュラムに基づき、スポーツ指導者としての能力を高めるとともに、常に自己研鑽に努め、社会的に信頼される指導者となり、これまで以上に我が国スポーツ振興の中核として活躍されることを期待します。